

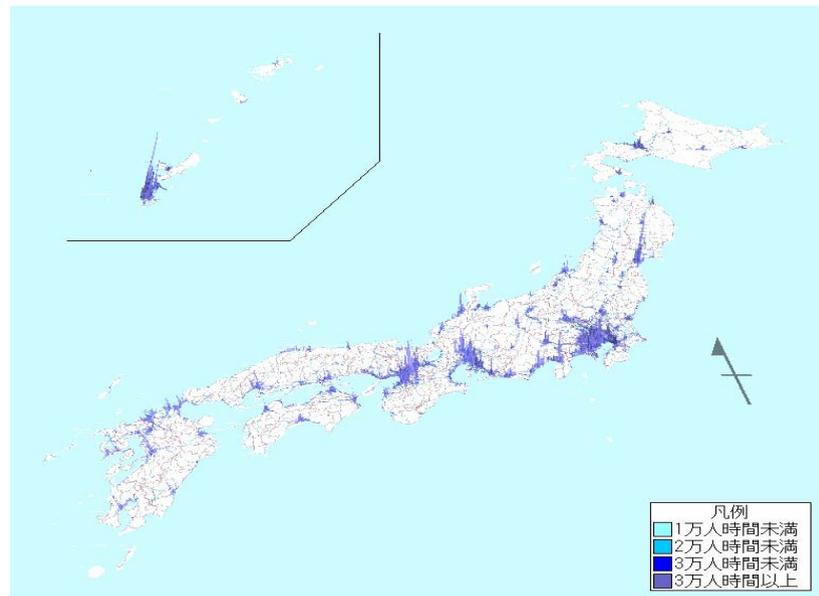
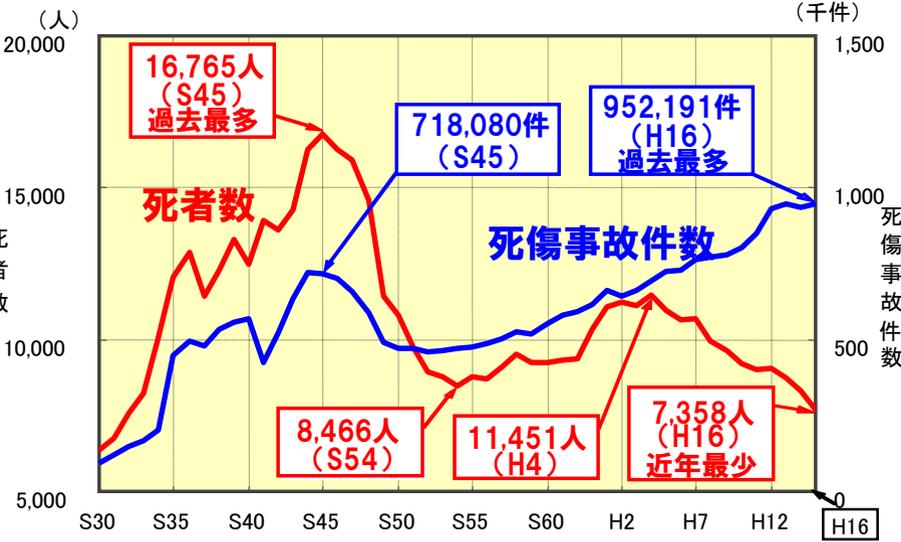
平成17年度道路関係予算のポイント

1. 道路整備の現状
2. 平成17年度道路関係予算
3. 円滑な移動の支援
4. 安全で安心できる暮らしの確保
5. 地域再生・都市再生の支援
6. 地域環境と美しい景観の保全と創造
7. 道路行政の改革

1. 道路整備の現状

- ピーク時に1時間あたり40分以上閉まる“開かずの踏切”は、全国に**約500箇所**
- 渋滞による損失は、年間**約38.1億人時間**(国民一人当たり 約30時間)
- 無電柱化 東京23区:**6.4%**(H15年度末)(ロンドン:100% パリ:100% ニューヨーク72.1%)
- 拠点的な空港・港湾への道路アクセス率(IC等から10分以内に到達可能な割合)**61%**
(米国91% 欧州84%) (H15年度末)
- 落石、地滑りなどの道路災害は、1年間に**約5,700回**(H15年度)
総通行止め時間は **約28万時間**(H15年度)
気象状況などにより通行規制される区間は直轄国道でも**約1,300km**(H15年度末)
- 交通事故による死者数:7,358人(H16年) 負傷者数:**約118万人**(H16年)

<死者数、死傷事故件数の推移>



[交通事故] 年間死傷事故件数が過去最多を更新
(死傷事故件数: 952,191件/年(H16))

[交通渋滞] 全国で年間38.1億人時間の経済損失

2. 平成17年度道路関係予算

(単位:億円)

平成16年度

32,062

地方道路整備臨時交付金

7,072

道路整備等

24,990

まちづくり交付金等 327

DPF支援
無電柱化支援等 202

本四債務処理

3,049

3,578

平成17年度

30,997

地方道路整備臨時交付金

7,408

道路整備等

23,589

まちづくり交付金
道整備交付金等 677

ETC普及促進
自律的移動支援等 266

本四債務処理

4,829

5,772

36,769

道路整備特別会計

一般会計

合計

35,640

- <注> 1. 道路整備等には、道路整備及び道路環境整備を計上。
2. 河川等関連公共施設整備促進事業を含む。

3. 円滑な移動の支援

ポイント

- 多様で弾力的な料金施策、スマートICの本格導入、ミッシングリンクの解消により、高速道路をより有効に活用することで、一般道も含めた道路全体の渋滞・沿道環境・交通事故等の諸課題を解決
- 連続立体交差事業の施行者拡大や踏切システムの高度化等、踏切対策の総合的推進

「使える」ハイウェイ施策の推進

●多様で弾力的な料金施策

多様で弾力的な料金施策を実施するとともに、ETCの利用促進を図る。

- ・公団による時間帯割引やマイレージ割引(高速自動車国道)
- ・対距離料金制への移行等に向けた料金社会実験(都市高速道路)



●スマートICの本格導入

建設・管理コストの削減が可能なスマートIC(ETC専用のIC)を活用し、追加ICの整備を促進。



●ミッシングリンクの解消

途切れたネットワークを繋げることにより、高速道路の使い勝手を向上。

【SA・PAに接続するスマートIC社会実験】

踏切道の改良推進

- 抜本対策 : 連続立体交差事業の施行者拡大
- 速効対策 : 遮断時間短縮のための踏切システム高度化
交通容量拡大のための踏切拡幅等

【海外主要都市との踏切数の比較】

東京23区	パリ	ロンドン
699踏切	14踏切	19踏切
(621km ²)	(761km ²)	(1,280km ²)

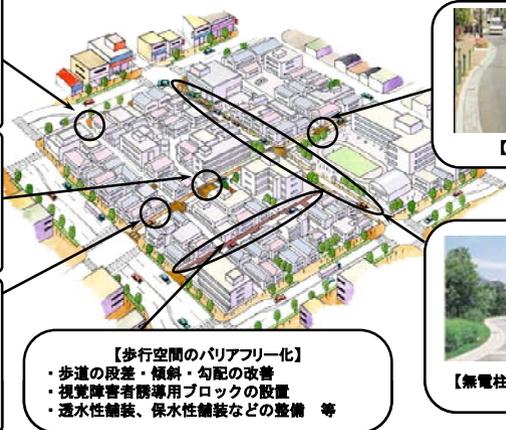
()内は対象面積

4. 安全で安心できる暮らしの確保

ポイント

- 暮らしのみちゾーンやバリアフリー重点整備地区等、身近なニーズに応える施策に先導的に取り組む地区を募集・特別支援し、全国の見本となる「スーパーモデル地区」を構築
- 安全で信頼性の高い道路網の確保(緊急輸送道路の橋梁耐震補強3箇年プログラムの創設等)

「スーパーモデル地区」の構築



<スーパーモデル地区の対象地区>

- ・暮らしのみちゾーン
- ・バリアフリー重点整備地区
- ・面的無電柱化地区
- ・自転車利用増地区

「緊急輸送道路の橋梁耐震補強3箇年プログラム」 (H17~H19)

- ・直轄国道は、平成19年度までに概ね完了。
- ・都道府県管理道路は、優先確保ルートを選定し、平成19年度までに概ね完了。

○上部構造（桁）の落下防止対策の例 ○下部構造（橋脚）の耐震補強の例



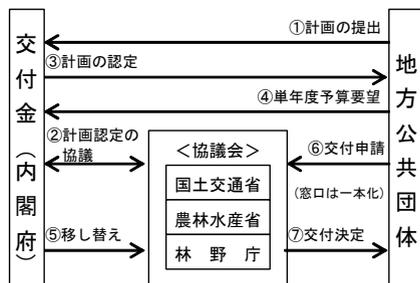
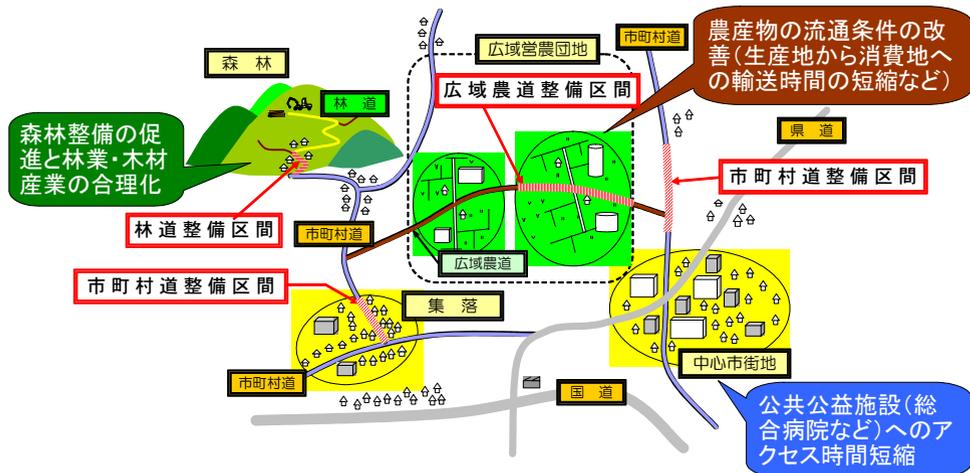
5. 地域再生・都市再生の支援

ポイント

- 地方道・農道・林道をパッケージ化して整備する道整備交付金の創設
- 交通渋滞の緩和を図り、大気汚染や地球温暖化等の環境問題にも大きく貢献する環状道路の整備を推進

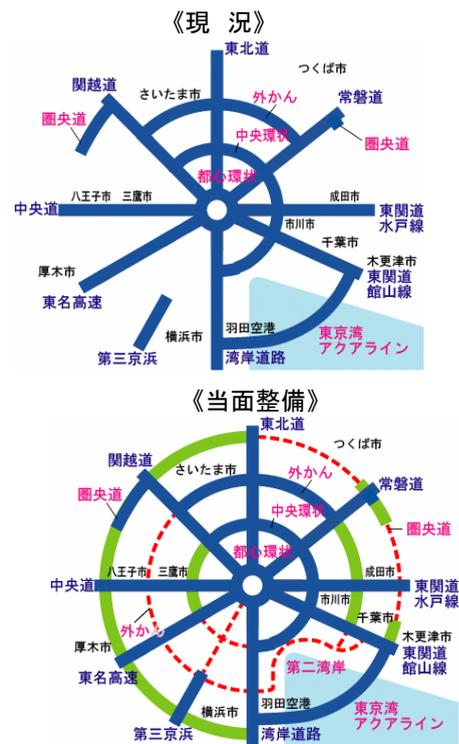
農道等とパッケージ化して整備する道整備交付金の創設

道整備交付金の連携イメージ



【交付手続きの流れ】

環状道路の整備



● 走行時間の短縮、燃料費の減少等による効果

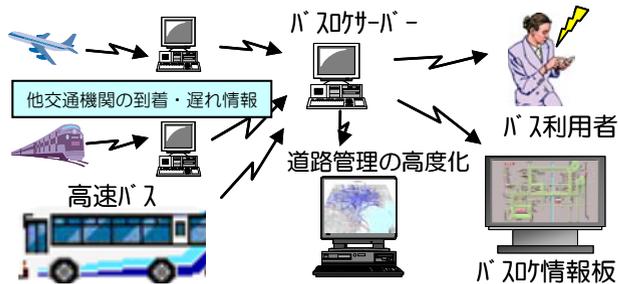
約2兆円/年

6. 地球環境と美しい景観の保全と創造

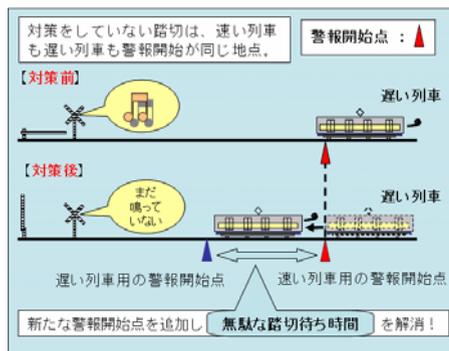
ポイント

- ボトルネック対策等による交通容量の拡大(環状道路、連続立体交差事業など)
- 道路交通の円滑化を促進するための情報システムづくりを支援
- 都市景観や防災性向上、安全で快適な通行空間の確保を図るため、無電柱化を推進
- ヒートアイランド現象が顕著である都市部において、路面温度を低下させる舗装を普及促進

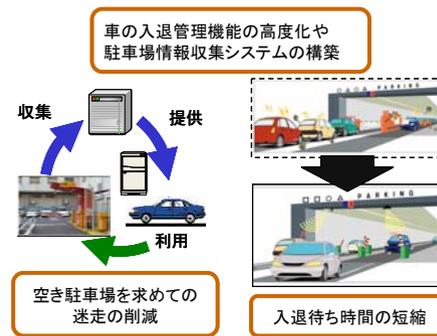
道路交通円滑化のための情報システムづくり



【高速バスロケーションシステムの導入促進】

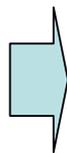


【遮断時間短縮のための踏切システム高度化】



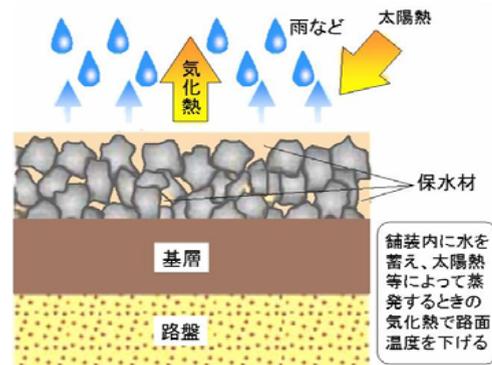
【駐車場システムの高度化】

美しい景観(無電柱化)



【歴史的景観地区の整備状況】(埼玉県川越市)

路面温度を低下させる舗装



7. 道路行政の改革

(1) 成果志向の道路行政マネジメントの実践

- 達成度報告で得られた取組みへの評価と知見を、重点施策や予算に初めて反映
- 優先度明示方式の活用など、目標とする成果に直結する予算配分を実施

(2) 補助金の改革

- 責任裁量型への転換(事業採択における事前審査は行わず、求める効果を事後審査)
- 農道等とパッケージ化して整備する道整備交付金の創設

(3) より「使える」ハイウェイ政策への転換

- 多様で弾力的な料金施策の実施
- スマートICの本格導入に向けた取組みを推進

(4) ユーザーとの接点強化

- 「道の相談室」における意見処理の迅速化
- 道路工事の問合せ番号を設定し、工事情報の特定、検索を簡素化